



## 会長挨拶

会員の皆様にご挨拶申し上げます。今後の4年間に渡り、アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）の会長をお務めすることになりましたが、光栄に思いながら、大変恐縮です。

以前も何回か立候補のご依頼を受けたことがございますが、お断りして参りました。この度、各国の親友の説得に屈し、どうか引き受けさせて頂くことに致しました。APASWEのように大きな組織のために努めることは挑戦そのものですが、当選した皆さんとともに、全ての会員の利益を念頭に、APASWEが掲げる目標に向けて最善を尽くします。したがって、選挙にあたり、私を説得、推薦、助言して下さいました方々には心よりお礼を申し上げます。

任期中に意図する最大の目標は、特に地域内の会員にとって、組織を可視化することです。そのために、APASWEの従来使命である「ソーシャルワーク教育」に帰らなければなりません。今後に向けて展開、企画する活動はこれを意識するべきです。大学や各国協会との協働は社会のためになるソーシャルワーク教育の促進に向く必要があります。歴代の会長、特に秋元樹教授のおかげで、APASWEの会員体制は組織会員と個人会員に関しても健全です。APASWEの活動は国際ソーシャルワーカー連盟アジア太平洋地域（IFAP）と共催される隔年の会議を越えなければなりません。会議は欠くことのできない伝統のようなものであると同時に、ソーシャルワーク教育を教育者間で発展させる他の活動も考えるべきです。何方よりもご提案をお待ちしており、できる範囲内でご期待にお応えしたいと存じます。

こちらで思いつくアイデアの一つは公開・遠隔教育（ODL）です。21世紀の教育は、伝統的な教室モデルからオンラインに移ってきています。ソーシャルワーク教育がどのようにこれらの変化の一部を担えるかについて議論しなければなりません。200校を上回る大学等からなる組織会員の中で、協働の可能性が確実に存在しております。ODL体制に取り組みたい学校は、組織内の数々の教員を活用できるかもしれません。インターネット接続が良好である以上、距離は問題にならないはずです。

理事会は皆様のためにあります。皆様のご意見に耳を澄ませ、できる限りご対応致します。そのための人的及び知的な資源は揃っております。最後に、日本、韓国、中国、オーストラリア、ニュージーランドの皆様は、多くの会員数を誇っているため、特に積極的なご参加をお待ちしております。では、無数の課題の解決に向けて、我々の特技であるソーシャルワーク教育を通じて、みんなで社会のために協働しましょう。

サラーム（平和を）  
APASWE 会長  
ズルカルナイン ハタ

2017年10月